特集

いま湖国によみがえるマーラーの「復活」

2011年のマーラー「巨人」、2012年のベルリオーズ「幻想」に続き、指揮者・篠崎靖男氏がプロデュースするオーケストラシリーズの第3弾として、2013年の公演で上演するのはマーラーの交響曲第2番「復活」。「第九」公演以外ではじめて、新たにKEIBUN合唱団が編成される。この春は、びわ湖ホールで魂をゆさぶられるほどの感動を体験しよう。

オーケストラのさまざまな魅力を発掘するシリーズの第3弾は、管弦楽の可能性を探り、その機能を最大限に生かしたともいえるマーラーの交響曲第2番「復活」。フルオーケストラに声楽のソリスト、合唱団、オルガンが加わるステージと、舞台外にはバンダ（楽隊）が控え、総勢350人を超える大編成になる。

「復活」とはマーラーがつけた標題ではないが、合唱が入る第5楽章の誕生に由来している。マーラーが交響曲第2番の作曲に取り掛かってから6年ほど経ち、フィナーレをどうすべきか途方に暮れていた頃、指揮者ハンス・フォン・ビューローの葬儀で聴いたオルガンと聖歌隊による讃歌「復活」（フリードリヒ・ゴットリープ・クロプシュトックの詩）に感動し、直感的にこの詩を最終楽章に取り入れることを決意する。

第5楽章は主にイエス・キリストの〝最後の審判〟を描くものだが、マーラーが表現しようとする死生観は、クロプシュトックの詩ではあまりにも短く、自らの手で大半の詩を加筆したという。そして、生きるために死があるのだと歌い上げる。「よみがえる、そうだ、おまえはよみがえるだろう」と、壮厳な合唱が大迫力で胸に迫る。

マーラー自身の解説によると、第1楽章は交響曲第1番「巨人」に登場した英雄の葬礼を表現し、「いかなる目的のために汝は生まれてきたのか」という問題を提起しているのだという。そして「この解答は最終楽章で与える」と示唆している。その答えを求めてマーラーは6年の歳月を費やしたのかもしれない。

マーラーの音楽を聴いていると、彼は自らの苦悩や哀歓をすべてさらけ出しているように感じられる。そして、現代の聴衆はマーラーを理解するために、その深層心理にある秘密を探ろうとする。近年公開された映画にも描かれていたが、晩年、マーラーは精神分析医フロイトのカウンセリングを受けている。当時、妻・アルマの不貞に悩んでいたともいう。甘美な名曲で知られる交響曲第5番のアダージェットは、アルマへのラブレターではないかといわれ、一方、未完となった最後の交響曲第10番のスケッチには「君のために生きよう、君のために死のう、愛するアルマよ」と、悲痛な言葉が残されている。

マーラーの生涯は約50年。その人生に凝縮された音の宇宙は21世紀のいまも異彩を放っている。とりわけ「復活」はマーラーの個性を際立たせるものだ。まずは、壮大かつ感動的なシンフォニーと合唱を聴くべし!!

※「マーラー 君に捧げるアダージョ」（2011年公開、パーシー・アドロン、フェリックス・アドロン共同監督）

篠崎氏が師事した飯守泰次郎（指揮）による「復活」の公演より
指揮：飯守泰次郎　独唱：垣花洋子、福原寿美枝
合唱：大阪アカデミー合唱団、関西二期会合唱団
管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団

INTERVIEW

音楽が表現する魂の〝復活〟マーラーの凄みを感じてほしい。

マーラーの大曲、交響曲第2番「復活」が満を持しての登場。びわ湖ホールでも初の演奏ということもあり、期待が高まる。そこで指揮を務める篠崎靖男さんに、マーラーと「復活」について、語っていただいた。

指揮者
篠崎 靖男
Yasuo Shinozaki

激動の時代、19世紀末のウィーンに活躍した作曲家グスタフ・マーラー。シリーズ第1弾の交響曲第1番「巨人」に続き、第2番「復活」を取り上げる篠崎靖男さんにとって、マーラーとは格別な思いを持つ存在なのではないだろうか。

「マーラーはもともと著名な指揮者でしたが、表現者として本当にやりたかったのは作曲だったのでしょう。作曲家の中でも独自性が高く、個性的な存在だと言わざるを得ません。まず特筆すべきは音楽性のユニークさです。ベートーヴェンやブラームスでも、一つの曲、一つの楽章の中に表現するのは一つの情感ですが、マーラーは違う。彼は人生の歓びと哀しみを、そのまま一つの音として同時に表現します。例えば荘厳な宗教曲のようなメロディーの中に突然、軍楽隊のファンファーレのような、下世話で雑音に近い響きを入れる。これは他の作曲家ではあり得ないスタイルです」

ではなぜ、彼は独自のスタイルを獲得し得たのか？その背景には彼の人生が大きく関係している。彼はボヘミア（現在のチェコ）の田舎町の酒屋の息子として生まれ、一族はユダヤ人であった。現代のユダヤ人といえば世界経済を動かしているといった裕福なイメージを抱きがちだが、この時代の彼らの生活は決して恵まれたものではなかった。

「葛藤と苦悩から生まれた音楽が万人の心に届く」

「大都市ではゲットーと呼ばれた居住区以外で住むことも許されませんでした。音楽的に恵まれた環境で育ったわけではないにも関わらず、マーラーは才能を発揮し、ウィーン宮廷歌劇場（現ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の前身）の芸術監督を務めるなど、指揮者としてトップまで上りつめます。しかし彼の心の中からは自分が〝アウトサイダー〟だという意識が消えることはなかった。自分は三重の意味で〝アウトサイダー〟だと自嘲していました」

オーストリアにおけるボヘミア人、ドイツにおけるオーストリア人、そして世界におけるユダヤ人――自分にはいつも居場所がない。それがマーラーの感じていた現実であったのだろう。

「彼は自分のことを〝根なし草のユダヤ人〟と言っています。どんなに栄光をつかんでも、彼の中には徹底的な疎外感、孤独感が横たわっていた。さらに私生活では、妻アルマに対する複雑な思いもあった。若く美しいオーストリア人の彼女に、マーラーは自分のコンプレックスを直視させられ、自分が抱える矛盾や両義性との葛藤に苦しみ続けました」

だがマーラーの稀有な才能は、その矛盾を音楽で表現していったところにある。アンビバレント（相反する感情を同時に抱く）な人間として自分を見続けてきたからこそ、その音楽は人間という本質に純化し、万人の心に届く普遍性が生まれていったのだろう。

「彼の音楽は、人には悩みがあり、喜びがあり、葛藤があることを感じさせてくれます。私たちは一人ひとりが雑多に混じり合った感情を持っている存在である、と。そういった意味で彼は真に芸術家だったのだと思います」

「同じ音楽から生まれる 同じ夢を共有できる歓びを」

指揮者
篠﨑 靖男
Yasuo Shinozaki

1968年京都に生まれ、滋賀に育つ。桐朋学園大学、ウィーン国立音楽大学で指揮を学ぶ。1993年アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクール最高位、2000年第2回シベリウス国際指揮者コンクール第2位受賞。2001～04年ロス・アンジェルス・フィルのアシスタント・コンダクターを務め、2007年よりフィンランド・キュミ・シンフォニエッタの首席指揮者・芸術監督に就任。これまでにロンドンフィル、フランクフルト放送響をはじめ、国内外の数多くのオーケストラを指揮、著名なソリストと共演。滋賀では、2000 年より日野町でオーケストラ・ムジカ・チェレステを指揮、2011 年より篠﨑靖男プロデュース・オーケストラ・シリーズをスタートさせた。ロンドン在住。

「マーラーの〝復活〟は、合唱が入った交響曲として、ベートーヴェンの〝第九〟と並び称される、特別で偉大な曲です。数多く録音されてきた名曲ですが、演奏が大がかり過ぎることもあり、コンサートホールで上演することが意外に少ない。びわ湖ホールでさえ今回が初公演なのですから。この希少なチャンスを逃さないでほしい」と篠﨑さんは熱く語る。

「第九の合唱は人類愛を表現していますが、復活は〝人は死に向かっている。だけど、魂は救済され復活する〟というメッセージがあります。楽曲が終わった瞬間には、魂が本当に復活していくような感覚に満たされます。そこには人が生きていく上で、音楽は必要なものなのだ！と強く断定させてしまう迫力があります。音楽が表現する魂の〝復活〟、マーラーの凄みが感じられます」

人々が同じ音楽を聴き、同じ夢を見ることができる素晴らしさ。演奏家も観客も「復活した」と感じられる真実。そこにあるのは音楽の神髄そのものだ。

「音楽は生き物です。終わった瞬間に消えてしまうけれど、奏でられている時間こそ現実だと思えるほど魅了させられる。指揮者とは曲に込められた魂に息を吹き込み、作曲家や演奏家の思いを観客に伝える、いわば橋渡し的な存在なのでしょう。今回は、京都市交響楽団と素晴らしいソリスト（市原愛、アンナ・クオ）、そして、びわ湖ホール声楽アンサンブル、KEIBUN第九合唱団の演奏でお届けできることが本当に楽しみです」と篠﨑さん。

7月には室内管弦楽団オーケストラ・ムジカ・チェレステによる、日野町町民会館わたむきホール虹の開館20周年記念公演も控えている。京都に生まれ、現在は世界各国で活躍する彼もまた、滋賀県と世界をつないでいく存在のように思える。

京都市交響楽団

Information

篠﨑靖男プロデュース
オーケストラシリーズVol.3
マーラー「復活」

指　揮／篠﨑靖男（フィンランド・キュミ・シンフォニエッタ芸術監督）
独　唱／市原愛（ソプラノ）、アンナ・クオ（アルト）
合　唱／KEIBUN第九合唱団、びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽／京都市交響楽団

日時／5月19日（日）14:00開演
会場／滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール
料金／S席 7,000円、A席 6,000円、B席 5,000円、C席 4,000円
（KEIBUN友の会会員は各席500円引き）

KEIBUN友の会優先発売中　**一般発売 1月26日（土）予定**

平成25年度滋賀県アートコラボレーション事業
日野町町民会館わたむきホール虹
開館20周年記念
オーケストラ・ムジカ・チェレステ演奏会

指　揮／篠﨑靖男
ピアノ独奏／小川典子
管弦楽／オーケストラ・ムジカ・チェレステ

日時／7月14日（日）14:00開演
会場／日野町町民会館わたむきホール虹
曲目／ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調
ブラームス：交響曲第1番　他
※料金・発売日は4月上旬発表予定